

第18回 FSPインタビュー

古今珍品情報流通センター

ふきはら まなぶ
吹原 学
専務

養老町生まれ、養老町育ち。大学卒業後からずっと、本店とともに地域や時代の変遷を見守ってきた。
「夢やロマンや時代と触れ合って、気付いたら40年経っていました。この仕事が趣味みたいなものです」と笑顔で話す。

※ご本人に代わり、看板狸にご登場いただきました。

夢とロマンと時代を売る。



FSP(フレンドシップパートナー)って？

養老町公式ファンクラブである『YORO SUPPORTER WORLD』に入会した会員と一緒に養老町を盛りあげていくお店や企業です。FSP登録店舗で会員証を提示するとお得にお買物や飲食が楽しめます。YSW公式HPにて登録店舗を紹介しています。
<https://www.town.yoro.gifu.jp/docs/2022031700023/>

Q、(店内に所狭しと展示された膨大な数の骨董品に圧倒される...) 養老町にこんなところがあるなんて驚きでしょ？(笑)
うちは、〈時代〉を売っています。〈夢とロマンと時代〉を売っているんですよ。それは昭和45年の開業当初から変わっていません。
Q、掛け軸、壺、ブリキのミニカー、甲冑に、時代劇でよく見る駕籠まで... タイムスリップしたみたい(笑)
楽しいでしょ？(笑)
最近では、レトロブームもあるのか、若い方が買っていくことが増えましたよ。
現代って、何でも壊して捨てていっちゃうでしょ？でも、〈いいもの〉って味があるんですよ。
時代は変わっていくけど、時代によって売れるものも変わっていきます。
温故知新という言葉もあるけど、古きものから得ることはたくさんあると思います。



Q、お店の外観も、まるでお城みたいですね！

この店ができたのが昭和45年だから、ちょうど高度経済成長期でした。当時、国道258号線ができて、その後に(店舗前の)農免道路が整備されてからこの店ができました。今ではとてもありがたいことに、養老町のアイコン、ランドマークにもなりつつあると感じています。
この店は母が始めたんだけど、「地域の方のために」と、トイレを店の外に構えたり、ATMやポストも作ったり。当時は最先端で、コンビニがあるというか、地域とかお客様にとって優しい店でありたいという考えだったと思います。地域貢献もしたい。それは今でも変わりません。

Q、よく見るとお米や養老の特産品も売っていますね。

営農センターさんとコラボしています。この場所でお店をやるからには、地域とともにあって、地域とともに発展していきたい。
いつも養老町にどうやって人を呼ぶか、来てもらうかを考えていますが、その仕組みのなかに地域を仲介させたいと思っています。人がたくさん養老町に来てくれて、地域でとれたハッシモ米だったり、養老の特産品も

古今珍品情報流通センター

住 養老郡養老町船附1503

☎ 0584-35-2227

SUPPORTER特典

商品のご購入で

粗品プレゼント

※内容は取材当時のものです。



当店は、お米から骨董品まで売っています。
お越しいただいた皆さんに夢とロマンと時代を感じていただく店づくりを目指しています。
あなたのお家の押入れにお宝が眠っているかもしれませんよ。
珍しいものやレトロなものをお探しの方から、ちょっとした非日常を感じたい方まで、ぜひ珍品センターにお立ち寄りください。

Q、SUPPORTERの皆さんに一言お願いします。

とか、養老町の魅力や面白いものを買って帰ってもらいたい。家に帰ってからも楽しんでもらえるように。他の事業者とツアアを組んで養老町を巡ってもらおうのも面白いかもしれません。

